

令和元年度小松市立荒屋小学校 学校評価（年度末）

めざす児童生徒像

- 「心身ともに健やかで、主体的に考え、高め合う児童」
- ・主体的に考え、学び合う子

・心豊かで思いやりのある子

・健やかな心と体を目指す子

※児童生徒達成結果－教員結果 数値は肯定的評価ではなく達成率で計算(前年度より使用)

					中間				年度末				達成状況の分析	改善策
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差		
					教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
（学校重点項目） （学校で設定）	（学校重点項目） （学校重点項目） 温かな人間関係の構築	安心して学べる学校	①	学校に行くのは楽しい	82	82.4	84.5	0.4	81	75.6	84.6	-5.4	全体的に各項目とも微減となっている。教員・保護者はあまり変化が見られないが、児童の回答に減少傾向が見られた。また、②については教師と児童の差が大きいままである。	児童一人一人の様子を丁寧に見とり、児童全員が安心して学べる学校を目指していく。
			②	相手の気持ちを考えた言動をとっている	64	89.4	70.9	25.4	64	86.2	69.8	22.2		
			③	話し合う活動を通して、自分とは異なる意見や少数意見のよさを理解し、折り合いをつけている	70	87.3		17.3	73	83.1		10.1		
			④	先生は、あなたのよいところを認めてくれている	76	75.1	81.4	-0.9	73	71.2	81.5	-1.8		
			集計		73	83.6	78.9	10.6	72.8	79.0	78.6	6.3		

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目									達成状況の分析	改善策
重点項目 石川県共通	業務の改善 働き方や健康に働ける職場		各項目が８０％以上	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	69					74			業務の平準化は目標値に届かなかったが前進した。また時間外勤務時間も目標値には達していないが、かなり減らすことができた。それに伴ってワークライフバランスも向上した。	来年度に向けて行事の見直しを行い、校務分掌の見直しと業務の平準化と整理・統合を推進していく。また、継続して時間外勤務時間が40時間を超えないように声掛けと効率化に取り組んでいく。
				② 1か月の時間外勤務が40時間を下回っている	47					67				
				③ 仕事にやりがいを感じている	92					87				
				④ 気軽に相談できる環境が整っている	89					85				
				⑤ ワークライフバランスが整っている	67					72				

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目			数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
							教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②が90%以上	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	80					91				・①は、約10%上昇した。研究授業の後にみんなで取り組むことを確認し、次の研究授業につないでいること、温かな人間関係を視野に入れた外部講師による研修を行ったことが要因となっていると考えられる。 ・②、③は微減した。研究授業後に、みんなで取り組むことを確認しているが、その実践の交流が不十分であると考えられる。	・これから研修を行う。他教科の研修も行いたい。また、授業の取り組みを部会で交流する時間を設けたい。
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	93					91					
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	93					88					
				集計	88.7				90							
		授業	①が80%以上 ⑥が90%以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	73	84.3			11.3	73	79.6		6.6	・1学期末に、教師と児童の差がどの項目も大きかった。教員と児童の目指す姿を一致させるため、2学期始めに石川県教員総合センターから優秀・マスター教員DVDを借りてきて児童と一緒に視聴した。が、今回も教員と児童の差が大きかった。 ・①は、2学期はじめに「ベル学」を全職員で指導した。その結果、「ベル学」の児童の意識は高まった。1学期よりも児童アンケートの結果は高くなったが、まだ「ベル着」段階の児童がいる。そのため、児童と教員の差が大きくなっている。 ・③④では、教師と児童の差は大きい。2学期に比べ、児童の達成率が低くなったが、④の差が10%縮まった。2学期から教師が書くことを大切にしてきたからだと考えられる。自分の考えを書く、そして全体解決をしてもう一度考えを付け足す時間をとってきた。その結果だと考えられる。 ・⑤⑥について、教員は、振り返りの時間の確保に努めているが、児童も教員も、振り返りの時間で、もっと変容や達成感を感じたいと思っている。	・ベル学の意識を高め、ベル着からベル学を意識させていく。 ・学びの基本である「話す・聴く」意識を全校でもう一度取り組む。 ・学びの達成感をより持たせるために、算数科では、自分で問題を作り解き合う活動を、そして、振り返りでは、自分だけではなく、友達の学びの良さも書き、紹介し合う時間を取る。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	73	81.9			8.9	70	76		6		
				③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	50	75			25	47	71.9		24.9		
				④	（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	59	85.2			26.2	60	76.3		16.3		
				⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	80	91.9			11.9	83	91		8		
				⑥	児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	80	86.9			6.9	73	82.9		9.9		
				集計	69.2	84.2			15.0	67.7	79.6		12.0			
				学力の定着	学力調査	①②が90%以上	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	87					85		
	②	学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	87								82					
	③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	83								80					
	集計	85.7								82.3						
	家庭学習	②が80%以上	①		自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	56	70.4	61.3	14.4	67	75.7	68.9	8.7	・1冊の自主学習ノートを学級で回して、一人ずつ自分のための学習を行い、意欲が高まった。 ・家庭学習強化週間に用いた「家庭学習チェックカード」に計画性を高める工夫を加え取り組み、児童の「計画して取り組むこと」の意識が高まった。	・自主学習ノートリレーを継続する。 ・来年度は、4月に家庭学習チェック表を使って、計画的に学習する構えをつくる。	
			②		児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	81				81						
			集計		68.5	70.4	61.3	1.9	74	75.7	68.9	1.7				